

関 そうですね。自分でもどっちが正しいのか答えが出ていないんだけど、今でも震災が起きた時のある出来事を思い出しますよ。当時、震災の影響で停電が続いていたりして、周りのお店も休業していた時に、うちには 3~4 人従業員がいたから、給料を払わないといけなくて、震災のときも店を開けてやっていたんですよ、ランタンで電気をつけたりしながら。そうやっていたら、むしろすごく忙しくて。供給が追いつかなくて、ガソリンもなかったから、自転車で買い出しに行ったりしていました。その時にうちの従業員が「こういう時に、ホッとできる場所があることがすごく励みになります」ってお客さんから言われたらしくて。その従業員が「こういうことっていいですよ、コーヒー屋っていいですよ」って言ったのを聞いて自分はプチギレちゃったんですよ。そういうことじゃない、自分は仕事を生きるために、食っていくためにやっているんだって。お客さんが喜んでくれたこと自体はいいことなんだけど、働いている人がそれに乗っかる気はさらさらしない。そういう感覚になると絶対立ち行かなくなるといったんですよ。でも今もわからないんですよ、どっちが正しいかは。僕は自分が好きでやっているから、人がどう思うかはどうでもいいっていう考えがずっと心の中にあるんですよ（笑）

金野 ユーザーの僕からすると今の日々の生活の中で、本もコーヒーもなくてはならないものなんですよ。だから時間が止まったような今の世の中で、本を読むことが昔より増えたり、コーヒーを楽しむことができるのも、すごくいいなと思います。

関 我々からすると、そういうことのためにお店をやっているっていうよりは、営業を続けるためにやっていることで。もちろん人の価値観は気にする必要がありますけどね。自分が 30 年近くお店をやっていると思うのは、自家焙煎やネルドリップであることから反れずに続けてこれたことは自分でも奇跡だと思っています。でもそれはお客さんは関係なくっていう気持ちがあったからこそだとも思うんですよ。だからこそ正解がわからない。いずれ頑固じいなんて言われるかもしれないですけど（笑）

三田 ちょっと話題が外れるんですけど、11 月に函館に行ったんですよ。その時にホテルでコーヒーを飲んでいたら、1 冊気になる本があって、読んでいたら日本で一番最初にコーヒーが飲まれたのが、長崎と横浜と函館だって書いてあった。江戸時代は勘定所が、脚気の薬としてコーヒーを配っていたらしいんですが、珈琲焙煎工房 美鈴が昭和 7 年にネルドリップを始めたらしいんです。それまでコーヒーは袋に入れて、ぐつぐつ煮出して、何回も同じ豆を飲むようなものだったらしいんですが、コーヒーのおいしさを表現するためにネルドリップを始めたらしいんだけど「それはたくさん豆を買わせるための戦略でしょ？」って市民からすごい反感を買って、定着にすごい時間がかかったという話を書いてあって。機屋さんのことを連想しながら、すごい面白いなと思って読んできました（笑）。函館は当時、40 店舗くらいすでにコーヒー屋さんとか喫茶店があったらしいですね。京都でさえその時は 2、3 店しかなかったらしいんですよ。だからやっぱり地方都市で喫茶店があるまちは文化度が高いことを示すような話だなと思って、面白いなと思いました。

金野 文化度のお話は、前号の CT Magazine でも紹介しましたね。まさに、おふたりは盛岡のその歴史を作ってこられたわけじゃないですか？ さわや書店さんにしても、機屋さんにしても。でも関さんのお話を聞いているとあまりそこへの責任は感じていないというか。そこは栗澤さんも一緒ですか？

栗澤 近いものはあるなと思います。書店ってなると、「文化」がどうだっとうるさいんですよ。昔は特に「本が文化を守る〜だから」みたいな話があって。要は書店はあまり商売っ気を出さなくてことなんですよ。ただひたすらにいい本を揃えているのが、本物の本屋だみたいな価値観があるんですよ。でも今は Amazon とかで、小売業界が崩されたじゃないですか。そうなるもお高く止まって、変わらない書店ももちろん結果的にはある。本屋の骨格としてはもちろん大切なことですよ。でも関さんがおっしゃったように、お金をもらわないといけなくてという側面がある。だから、本屋はたぶんプロレスをやりたいんですよ。

金野 どういうことでしょうか？

栗澤 要はその、本屋の「文化を守りましょう」という価値観だけを突き詰めていくと、それでお金をもらえないと総合格闘技になっちゃうんですよ。一時日本でもブームでしたが、アンチプロレス的な考えで、「リアルを見せてくれ」というような。ただ、今はそれが下火になっているじゃないですか。どうしてかっていうと、興行が成り立たないんですよ。リアルばかりをガチでしていくと、出る人たちが怪我人ばかりになる。大相撲もそうじゃないですか。八百長とリアルの境が叩かれたから、リアルにしたら、すごい怪我をする力士が増えた。でも、興行と本質を見せるところのバランスをうまく取っているのがプロレスなんですよ。プロレスだと見るお客さんを満足させないとだめじゃないですか。

関 未だに相撲は鍛え方がだめだから怪我するってしか思っていないんだけどね。みんな体重がありすぎるから。

栗澤 おそらくあれを解決するには年 6 場所やるのはきついんですよ。

金野 その商売論は初めて聞きましたね。プロレスだったり、相撲だったり。

関 千代の富士が好きで小学校高学年から相撲見ていたけど、若貴時代になって辞めちゃいましたね。

栗澤 じゃあ千代の富士を見ていたんですよ。

